

6

『ヒポクラテス集典』のこと

坂井 建雄

順天堂大学

ヒポクラテス Hippocrates (BC 460–370) は、伝説に彩られた古代ギリシャの医師である。エーゲ海のコス島で生まれて当代最高の医師とみなされ、一族と弟子の医師たちを数多く育てた。『ヒポクラテス集典』はヒポクラテスと弟子たちによる文書を集めた著作集で、18世紀に至るまで西洋伝統医学に少なからぬ影響を与えた。ヒポクラテスの名は、西洋医学の父として広く知られている。

『ヒポクラテス集典』には70編あまりの医学文書が収められている。とくに有名な文書は「誓い」である。現在の医療倫理では4つの原則（①自律の尊重、②無危害、③善行、④正義）が強調されるが、そのうちの②～④が、すでに「誓い」で述べられている。「神聖病について」は、神がかりの病気と信じられていた癲癇性の疾患についての論考である。宗教的な説明を排した合理的な視点が高く評価されている。「箴言」は病気と治療について医師の心得となるエッセンスを、簡潔な言葉で述べた語録集である。古くから注目されて、18世紀までの西洋伝統医学で学習すべき最重要の書物とされていた。全体が7章に分けられ、412篇の箴言が書かれている。

ローマ帝国の崩壊後、古代ギリシャ・ローマの医学はアラビアに伝えられ、シリア語やアラビア語に翻訳された。その中心となったのはガレノスの医学書であり、それらを基にしてアヴィケンナの『医学典範』など新たな医学書が編纂された。ヒポクラテスの医学書は10編ほどのみが正典として重視され、いずれもガレノスによる注釈を通して知られたものであった。

10世紀後半の南イタリアにサレルノ医学校が、弟子を育てる医師たちの緩やかな共同体として成立した。早期（11世紀末まで）には古代から伝承した医学文書をもとに医学実地書が編まれ、またアラビア語の医学文書がラテン語に翻訳され、医学教材集『アルティチェラ』が編まれた。その中核となる7編の文書の中に、ヒポクラテスの『箴言』、『予後』、『急性病の撰生法』の3編が含まれている。『アルティチェラ』はその後、ヨーロッパ各国の大学でも広く医学教育に用いられ、ヒポクラテスの文書の存在も広く知られるようになった。

紀元前4世紀にまで遡る『ヒポクラテス集典』の文書は、どのように書かれ、どのように編纂され、どのように現在まで伝わってきたのだろうか。ヒポクラテスの時代の文書は、パピルス紙の上に書かれ、巻物の形で保管されていた。しかしこのパピルスの卷子本のヒポクラテス文書は見いだされておらず、その原初の形を知ることはできない。4世紀頃から羊皮紙に文書を書き写し、本の形状に製本された冊子本が登場する。現存するヒポクラテスの写本はこの形で伝わっている。その後、印刷技術の登場と普及によって、16世紀から『ヒポクラテス集典』が印刷出版されるようになった。ギリシャ語原典としては1526年にヴェネツィアのアルドゥスが出版したのが最初で、17世紀までに8版が出版されている。そのうち2版がギリシャ語テキストのみ（ヴェネツィア 1526；バーゼル 1538）、6版がラテン語との対訳（ヴェネツィア 1588；フランクフルト 1595, 1621, 1624；ジュネーヴ 1657；ライデン 1665）である。

演者の所蔵する『ヒポクラテス集典』は、フランクフルトで1621年に出版されたもので、ギリシャ語とラテン語との対訳である。白いベラム（子牛皮紙）で装丁されたフォリオ判（高さ38cm）の大型本で、前付け（6葉）、本体1344頁、後付け（24葉）からなる。本文は2段組で、左段にギリシャ語、右段にラテン語訳が併記されている。本文は8節に分けられていて、58編の文書を含んでいる。末尾に2世紀の医師ソラノスによるヒポクラテスの伝記が収録されている。